

平成 29 年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校 校長 谷本 正弘

学校教育目標		夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成	
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	〈話すこと・聞くこと〉全国平均を10%以上上回る項目が多く、良好である。授業内で少人数での話し合いを効果的に実施する教科が多く、普段からの取り組みが功を奏していると考えられる。〈書くこと〉自分の考えを具体的に書くことが、「書くこと」にまつわる設問中、最も正答率が高かった。単元が終わるごとに書く400字前後の作文に、相手を意識させること、目的意識、条件に合わせて書き換える事の視点を与えて慣れさせたい。また、説明的文章を段落ごとに読み、要点を明確に記す取り組みもしたい。〈読むこと〉 おおむね良好である。物語の展開を理解したり、登場人物の言動の意味を読み取ること、また多くの資料の活用方法が、「読むこと」の他項目に比べ、やや低調である。文章の構成や要約など、全体を俯瞰してみることに課題があると考える。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉全国平均と同程度である。文脈に即して漢字を読む・書く、語句の意味を理解し適切に使う等の力に課題がある。
		数学	〈数式〉計算問題は高い正答率である。数量の関係を文字式に表すことやえられた情報から方程式をつくることに課題がある。〈図形〉垂直、平行のような関係性については理解できている。作図方法や図形の証明をすることに課題がある。〈関数〉比例の関係を理解し表をつくることができている。問題解決の方法を数学的に説明することや関係式を成立するための加えるべき条件を判断し、理由を説明することに課題がある。〈資料の活用〉簡単な確率の計算や与えられた情報を数学的に表現することができる。近似値・誤差の意味の理解や資料の表から最頻値を読み取ることが難しい。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	決まった範囲の中から出題される基礎的な問題に対しては正答率が高い傾向がある。自分で論理的に考え・説明する力に課題があり、記述で回答する設問に対し苦手な生徒が多い傾向にある。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	学習に必要な持ち物の準備、提出物が決められた期限内に出せない生徒に対し、日常生活習慣と関連づけた指導が必要。	
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	〈教科共通〉「授業で話し合う活動、めあて・ねらいの提示、協働学習、振り返りがよく行われている」と答えた割合はかなり高いが、「分からない時に先生に聞く」「先生は分かるまで教えてくれる」と答えた割合は低かった。〈学校全般〉「自分たちで学級の決まりを決めた」「学級で達成感を体験した」と答えた割合は高いが、「学校に行くのが楽しくない」と答えた割合はやや高く、「先生に認めてもらっていない」と答えた割合は高かった。〈家庭全般〉家庭学習の目安を越えている生徒が約4割であり、「家で予習、復習、計画を立てて学習している」と答えた割合は低かった。〈生活全般〉「進んで人を助けた」「役に立つ人になりたい」と答えた割合はやや高いが「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合はやや低く、「自分にはよいところがある」と答えた割合は低かった。いじめは「どんな理由があってもいけない」「どちらかといえば思わない」と答えた割合はやや高く、年々その割合が増加している。〈地域・社会〉「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域社会などでボランティア活動に参加した」と答えた割合は低かった。	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	基礎的な学力を身につけるために授業内容を改善しているという教師が多い反面、基礎的な学力の伸び悩みに悩んでいる生徒が多く、保護者からは学力補充などの時間をさらに増やして欲しいという要望が多い。	
研修の状況	校内研究の状況	「心かよいあう学校”つながる””つなぐ”支援を目指して ～きめ細やかな不登校対応と不登校未然防止の取り組み～」を研究テーマとして平成26年度から3年間取り組み、不登校生を減少させた成果を平成28年度に研究発表会を開き報告した。 学力向上については、引き続き「基礎・基本の定着を目指した学習指導 ～学び合い、高め合う学習を通して～」を研究推進テーマとし、授業改善、家庭学習、放課後学習の充実を図る。	
	校内研修の状況	研究推進委員会を中心に研究推進テーマの達成を目指して、積極的な校内研修を推進している。また、互見授業や公開授業を積極的に行うことで、校内全体で授業改善に取り組んでいる。	
校種間連携	家庭・地域等の状況	家庭・地域とのつながりを大切に、学校と家庭・地域が協働して生徒を指導・支援していく。共稼ぎの家庭も多く、学校がリードして家庭との連携を深めていく必要もある。	
	小・中における教科連携等の状況	中学校区の小中学校との連携を密にとっている。昨年度は出前授業、出前自転車安全講習会に加え、本校で新入生説明会を開き、小学6年生を対象に理科・英語・音楽で体験授業を行った。春休みの「小中連携ノート」の取り組みや、合同職員研修を実施している。	

	4月		10～11月	2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	中間評価	年度末評価	
	(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)			
1.授業改善	・全国学力学習状況調査質問紙の課題項目において、「難しいことに失敗を恐れず挑戦する」「国語・数学の学習に対して勉強が好き」「授業の内容がよく分かる」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。 ・研究推進アンケートで「各教科の授業が分かりやすい」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。	・「基礎・基本の定着を目指した学習指導 一学び合い、高め合う学習を通して」を校内共通テーマとした研究に取り組む。 ・「めあて」と「振り返り」を取り入れた授業を行う。 ・生徒自らが課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を取り入れた授業を行う。 ・学力向上を目指した授業改善を図るため、互見授業期間を設定し、各教科で年1回以上の公開授業を実施する。 ・ICT 機器を使った授業行う。	・互見授業や校内研究授業を行ったり、教科会を開く回数を増やしたりして、次期学習指導要領で求められている資質・能力の育成を目指して、学校全体で校内共通テーマの実現に向けて取り組んでいる。 ・全国学力学習状況調査の結果から「数学が好き」と答えた割合が大きく増加した。 ・研究推進アンケートで「学校の授業が理解できている」と答えた生徒の割合が高いが、全ての生徒が理解できる授業を目指し、さらに学校全体で「めあての提示、協働学習、ふりかえり」を中心とした授業改善に取り組む。	・年度初めに設定した「成果目標達成のための具体的な手立て等」について、全校で共通理解を図り取り組めた。 ・学校評価アンケートから「学校の授業が分かりやすい」と言っている」「学校は授業改善など学力向上に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が昨年度より増加した。 ・次年度は主体的・対話的で深い学びの実現(アクティブラーニングの視点からの授業改善)に取り組み、生徒の資質・能力の育成を図る。	A
2.家庭学習の充実	・研究推進アンケートで「家庭学習の仕方がわかる」「家庭学習の時間で1年生は70分以上、2年生は90分以上、3年生は120分以上行っている」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。	・「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の仕方を指導し、家庭学習の時間の目安を示す。 ・各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、その指導と評価を行う。	・全国学力学習状況調査と研究推進アンケートの結果から「宿題、復習、予習等の家庭学習の取り組み方」に課題があることが分かった。 ・各教科で具体的な家庭学習の仕方を示した上で、さらにきめ細やかな指導を行い、家庭学習の定着を図る。	・「家庭学習の手引き」を配布し家庭学習の仕方や時間を示すことにより、生徒にしっかりと家庭学習をするよう積極的に啓発を行った。 ・学校評価アンケートから「家庭学習の手引きを活用して自分から進んで宿題や復習などを行っている」と答えた生徒の割合が昨年度より増加した。次年度も引き続き家庭学習の指導と啓発を行う。	B
3.読書活動の充実	・三田市読書アンケートで「読書が好き」と答える生徒の割合とクラスと個人の平均貸出数が昨年度の結果を上回る。 ・研究推進アンケートで「一日30分以上読書をしている」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。	・毎朝8:25～8:35の10分間(朝礼がある月曜日以外)朝読書を行う。 ・毎月23日を「八景中学校読書の日」とし、学校司書と連携し、読書活動を活性化させる。 ・学校図書館の環境整備と「学校図書館便り」発行を行う。 ・貸し出し数の多いクラスや生徒を表彰することで読書への関心を高める。 ・家庭にも読書活動の周知啓発を行う。	・毎朝8:25～8:35の10分間の朝読書が定着してきた。 ・全国学力学習状況調査と研究推進アンケートの結果から携帯電話やスマートフォン、テレビ、ゲームをしている時間が長くなっており、家庭における読書時間が少なくなっていることが分かった。 ・読書への関心を高める工夫、取り組みをすると共に、家庭への啓発をさらに進めていく。	・毎日朝読書を行うことにより、学校の中で落ち着いた雰囲気生活・学習することができ、生徒の本への興味が増した。 ・学校司書と図書委員の働きかけにより読書活動の啓発と図書館の環境整備を進めた結果、来館する生徒と貸出冊数が増加した。 ・学校司書が授業で本の読み聞かせをする取組を行った。	A
4.放課後の学力補充	・研究推進アンケートで「基礎的・基本的な知識・技能を身につけることが出来た」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。	・「ひょうごがんばりタイム」を実施する。 ・各学年、各教科で木曜日やテスト前の放課後を使って計画的に学力補充を行う。	・昨年度に続き、「ひょうごがんばりタイム」を毎木曜日の放課後に地域人材を活用して実施している。3年生は10月から毎月曜日にも実施している。 ・テスト前や毎木曜日の放課後を活用して、各学年、各教科で補充学習会を実施している。	・毎木曜日や考査前を中心に放課後学習会を積極的、組織的に行った。それにより質問に来る生徒が増加した。 ・ひょうごがんばりタイムにおいて地域人材を活用して計画的に実施し、基礎・基本的な学力を身につけさせることができた。 ・一斉登下校指導や部活動指導との整理をし、各々の充実を図る。	A
5.小中連携の充実	・中学校区の小中学校との連携を密に取り、中1ギャップを減少させる。特に中学1年生の不登校生徒数を昨年度より減少させる。	・中学校卒業時の目指す生徒像を中学校区の小中学校で共通認識し、9年間を見通した取り組みを積極的に行っていく。 ・管理職、担当者の定期的、積極的な交流を行い、取り組みの進捗状況を確認する。 ・出前授業や体験授業を行う。 ・春休みに「小中連携ノート」を作成する。 ・教育相談研修や学力向上研修等を通じて、小中職員の参観授業や合同研修会を実施する。	・春休み中の小中連携会での情報交換が、中1ギャップの減少につながっている。 ・八景中学校区での小中連携を今年度から6つの柱に分け、きめ細かく実施している。その中で、お互いの情報交換を活発に行い、9年間を見通した取り組みを各校で行っている。	・年度初めに設定した「成果目標達成のための具体的な手立て等」について小中で連携し組織的に取り組めた。また、中学校区「学びのスタンダード」の作成に取り組んだ。 ・中1ギャップや不登校対策については、学力向上の観点からさらに粘り強く「チーム学校」として取り組んでいく。	A